

「第11回琉球大学びぶりお文学賞」発表

第11回琉球大学びぶりお文学賞は、平成29年5月1日から10月31日まで原稿を募集しておりましたが、期間中に小説部門に9編、詩部門に33編の応募がありました。応募作品の中から選考を行った結果、小説部門では受賞作の他に佳作1編、詩部門では受賞作の他に佳作4編が入選しました。

今回は、本文学賞が平成19年度に創設されて以来、初の小説・詩部門同時受賞となりました。

小説部門 受賞作 『乗り物の鼓動』 西上 正浩(琉球大学・理工学研究科)

佳作 『水中花』 久保田 大地(琉球大学・法文学部4年)

詩部門 受賞作 『ナビエ - ストークス方程式』 西上 正浩(琉球大学・理工学研究科)

佳作 『滞留』 竹澤 さち(琉球大学・人文社会科学研究科)

『閉ざされた花壇の中で』 島袋 昂也(琉球大学・法文学部4年)

『アンサー』 古波藏 唯(沖縄国際大学・総合文化学部3年)

『春の詩集』 荒井 青(琉球大学・教育学部3年)

【受賞の言葉】

西上 正浩(琉球大学・理工学研究科)

小説部門——『乗り物の鼓動』

この作品は、一昨年に起きた熊本地震をきっかけに作成しました。熊本は私を育ててくれた故郷であり、幼少期の私には世界の全てでした。今でもそこには、かけがえのない大切な人達と暖かい思い出があります。地震が起きた時、生まれて初めて心の底から大切なものが無くなる恐怖を感じました。この地震後、私は自分の命について真剣に向き合うようになりました。自分の命はどうせ、なにを手に入れても結局最後は消えてしまう。「サヨナラ」だけが人生ならば、綺麗な沖縄の海も、息を呑むような満点の星空も、全て虚しく思えて仕方ありませんでした。その時に思い出したのが吉野弘さんの有名な詩「I was born」でした。この詩は自分の命というモノは「生きている」だけではなく「生かしてもらっている」ということを私に教えてくれました。きっと自分の命は人間という「生き物」として同時に自分以外の誰かを乗せて今よりもずっと素敵な場所に送り届ける「乗り物」なのだと思います。大切なのは大切な誰かを大切にすること。重要なのは、いくつ守れたかではなくて、何を守れたかであるということ。でも、それが一番難しい。そんな思いを小説にしました。

詩部門——『ナビエ - ストークス方程式』

この作品は、私の日常の思いを「言葉」と「心」のちょうど真ん中にある「詩」を使って表現したものです。私は幼少期から人と海は非常によく似ていると思っていました。時には優しく穏やかに包み込み、時には悪意に満ちて荒れ狂い傷つける。私たちが知ることができるのは表面のさざ波だけで、本質は触れることができない海底の深い深い世界にある。そして、おもしろいことに人も海もほとんどが「水」で構成されています。この「水」の運動方程式がナビエ - ストークス方程式です。この方程式はとても複雑で、この方程式の解の存在に100万ドルの懸賞金が懸けられているほど難しいです。人の心もこの方程式と同じ様に、世の中の言葉にできない複雑な圧力や密度、速すぎるスピードに支配されています。そんな答えを出すことが難しく生きづらい世の中に落胆し、思考を停止するのではなく、ひとつひとつをかみしめるように丁寧に、そしてムーンリヴァーを渡るようなリズムで楽しく、答えを探していければ、多分もっと人生は素敵になるかもしれないという思いを込めてこんな作品になりました。

受賞作品は、図書館ホームページからアクセスできますので、是非ご覧ください。

URL:<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/20.500.12000/30454>

文学賞授賞式

授賞式は、平成30年1月17日に附属図書館ライブラリーホールで行われ、大城肇学長より賞状と副賞が授与されました。特に今回は、授賞式での受賞作の発表となったことから、小説部門・詩部門の同時受賞に対して驚きの声が上がっていました。

その後、大城貞俊氏、宮城隆尋氏の両選考委員から、入選作品に対する講評が述べられ、引き続き行われた懇談会では、活発な意見交換等が行われました。

